

財政健全化基本方針（第2ステージ）【概要版】

◆ 財政健全化基本方針（平成23～26年度）に基づく取組みにより、各種指標は着実に改善

区分	22年度決算	25年度決算	26年度末：394億円	比較
財源対策用基金残高	240億円	358億円		118億円（49%）の増加（全国32位→26位）
実質公債費比率	16.8%	13.5%		3.3ポイントの改善（全国38位→14位）
将来負担比率	183.2%	166.1%		17.1ポイントの改善（全国10位→10位）

＜＜財政需要の増加＞＞

- ① 社会保障関係経費の増加（30～40億円/年）、退職手当（170～200億円）・公債費（900億円超）の高止まり
※27～30年度の推計
- ② 防災・減災対策や人口減少対策、地域経済活性化の推進
- ③ 公約に掲げた重要施策（ドクターヘリの運航（1.5億円/年）、老朽化施設の更新など）の推進

＜＜県財政の足腰の弱さ＞＞

- ① アベノミクス効果が十分波及していない本県では、県税収入の動向が不透明
- ② 基金水準は全国的にはまだ低位（25年度末残高 358億円 < 全国平均（東京都除く） 413億円）
- ③ 地方消費税の引き上げ後も自主財源比率は依然低く（27当初：45%）、交付税に依存（27当初：26%）

＜＜国の新たな財政再建の動向＞＞

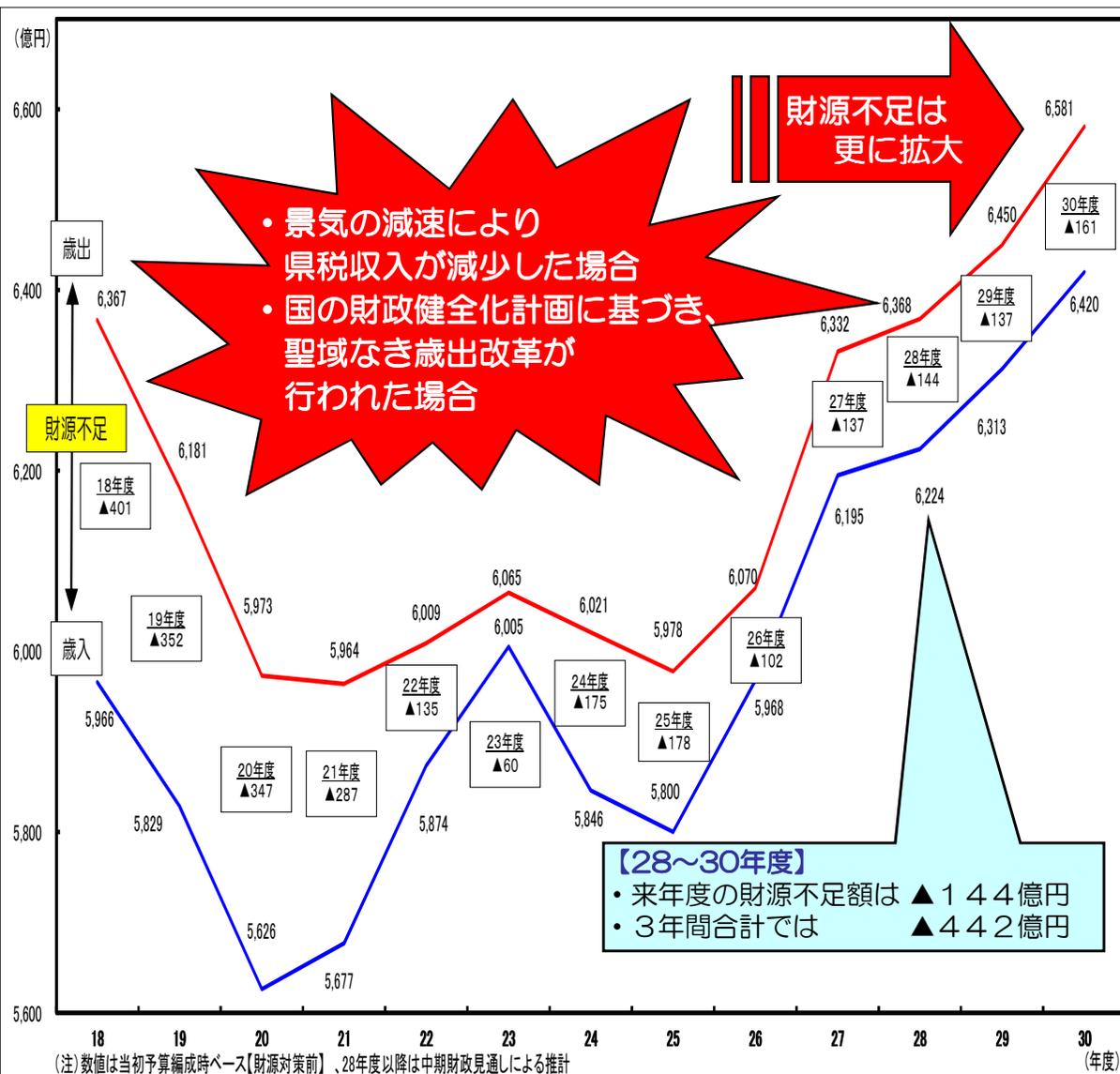
国は新たな財政健全化計画を策定予定 ⇒ 地方交付税等の削減や算定方法の見直し議論が不可避

先行き不透明な中、公約に掲げる重要施策の積極的な推進を図るためには、より足腰の強い財政基盤の構築が必要

次期行革大綱と合わせて新たな財政健全化の取組方針を策定

今後の財源不足の見通しは（中期財政見通し）

今後3年間で見込まれる財源不足額は▲442億円
 (28年度:▲144億円 29年度:▲137億円 30年度:▲161億円)
 ⇒スクラップ・アンド・ビルドを徹底した
 メリハリの効いた予算編成が必要



財政健全化基本方針（第2ステージ）

1 期間 平成27～30年度（4年間）

2 目標 「全国平均（東京都除く）を上回る財政の健全化」

①財源対策用基金残高

25決算 358億円 ⇒ 目標 **420億円**以上
 （参考値：全国平均（東京都除く）413億円）
 ・大規模災害等への備えや重要施策推進のため
全国平均水準の確保を目指す
 ・三位一体改革規模の減収が生じた場合は
大幅に減少（地方交付税等15⇒18年度▲407億円）

②実質公債費比率

25決算 13.5% ⇒ 目標 **現状を維持**
 （参考値：全国平均（東京都除く）14.9%）
 ・増大すると財政が硬直化し、**施策推進に支障**

③将来負担比率

25決算 166.1% ⇒ 目標 **現状を維持**
 （参考値：全国平均（東京都除く）203.6%）
 ・将来の**負債が増えると、中長期的に財政が逼迫**

目標値は、決算を踏まえて毎年度見直し

3 財政健全化に向けた取組み

【歳出の重点化・効率化】

- ・事務事業評価と連動した予算編成
- ・定員適正化の継続と
給与制度の適正な運用
- ・オール愛媛での取組みの推進
- ・防災・減災対策事業の計画的な推進や
公共施設の計画的な維持管理 など

【歳入の確保】

- ・実需創出による税収増や
税源移譲等の国への要請
- ・国の補助金・交付金の有効活用や
民間資金の積極的な導入
- ・地方交付税確保に向けた国への要請
- ・県債残高の圧縮や有利な県債の活用
- ・財源対策用基金等の確保 など

国の動向等への機動的な対応

- ・今後、本県中期財政見通しや国の財政運営の方針、
経済情勢の変動に対応して機動的・弾力的に見直します。
- ・本県財政状況の更なる悪化が避けられない場合には、
臨時応急の措置を検討します。

スクラップ・アンド・ビルドの徹底によるメリハリの効いた予算編成

歳出の重点化・効率化

1 更なるスクラップ・アンド・ビルドの徹底

- ①外部評価、事務事業評価を活用した事務事業見直しの徹底及び評価結果と連動した予算編成の推進
- ②スクラップ・アンド・ビルドを基本とした重要施策の積極的な推進【新規】
- ③業務執行リーダーを中心とした、機動的・効率的な事務執行により、事務費及び超過勤務を縮減【拡充】
- ④「ゼロ予算事業」の推進

2 人件費の適正化

- ①第六次定員適正化計画に基づく定員管理
- ②適正な給与水準の確保及び給与制度の適正な運用

3 県の役割の不断の見直し

- ①地域課題の解決に向けたオール愛媛での取組みを推進【新規】
- ②県単独補助金や国の外郭団体等への負担金の見直し
- ③特別会計や企業会計の事業・経営の合理化
- ④外郭団体への県の関与の見直し

4 大規模事業等の計画的な推進

- ①防災・減災対策事業等はスクラップ・アンド・ビルドを基本として計画的に推進【拡充】
- ②大規模事業の精査、県費負担額を圧縮した計画的な執行
- ③施設・設備の有効活用や民間資金の導入により、身の丈に合った国体の開催
- ④公共施設等総合管理計画の策定による計画的な維持管理・改修・改築等及び、県有財産管理推進本部による県有財産の有効活用、保有総量の最適化【新規】

歳入の確保

1 自主財源の確保

- ①実需の創出による経済活動の拡大と税収増【拡充】
- ②増大する地方の役割に対応した税源移譲等を国へ要請
- ③国の補助金・交付金の有効活用や民間資金の積極的な導入【新規】
- ④自主納税の促進、県・市町連携による滞納額の縮減【拡充】
- ⑤法定外税や超過課税の更なる研究・検討
- ⑥使用料・手数料の定期的見直し
- ⑦遊休県有財産の売却や貸付による利活用
- ⑧広告料収入の確保、新たな収入源の研究・開拓
- ⑨債権別行動計画に基づく税外未回収債権の回収強化
- ⑩ふるさと愛媛応援寄附金の普及啓発

2 地方交付税の確保

- ①地方の財政需要に見合った確保に向け、国へ強く働きかけ

3 県債発行及び公債費の抑制

- ①投資的経費の効果的執行により、実質的な県債残高を圧縮
- ②有利な県債の活用、将来負担の抑制
- ③県債の償還期間の弾力的運用
- ④資金調達先の多様化の検討

4 財源対策用基金等の確保

- ①取崩しを圧縮し、節減努力により全国平均水準を確保
- ②特定目的基金の有効活用

国の動向等への機動的な対応

1 国の動向等に対応した財政運営

- ①国の動向等に対応した財政見通しの機動的見直し・公表
- ②本県財政状況の更なる悪化が避けられない場合には、臨時応急の措置を検討

～愛媛県中期財政見通し（平成27年4月仮試算）～

【推計の前提条件】

- 本財政見通しは、現時点で把握できている状況を基に試算したものであり、**経済情勢や国の財政運営の動向等により大幅に変わりうる**
- 27年度当初予算をベースとして、27年度地方財政計画や内閣府中長期試算などにより一定の条件を仮定し、伸率を乗ずるなどして機械的に試算

【歳入】

- 県税**
個人県民税や法人事業税等は内閣府中長期試算の名目GDP成長率等により試算
地方消費税は29年度からの税率引き上げを見込む
- 地方交付税**
需要額は27年度地方財政計画及び公債費見込み等、収入額は税収見込額及び内閣府中長期試算の経済成長率等を基に試算
- 県債・国庫支出金等**
事業量の増減に連動

【歳出】

- 人件費**
学校の統廃合等に伴う教職員数の変動及び退職者数の変動を見込む
- 公債費**
償還計画を基に試算
- 投資的経費**
国体関連経費、県立学校耐震化経費及び国補正基金事業は個別増減を見込む
その他事業は同額推移
- 社会保障関係経費（扶助費含む）**
現在把握できる制度改正分と併せ、29年度からの消費税率の引き上げを機械的に見込む
(収支差ゼロと仮定)

区 分	年 度		26(最終予算)		27(当初)		28		29		30		
	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	
歳 入	1. 県税等	1,872	106.9	2,102	112.3	2,144	102.0	2,288	106.7	2,485	108.6		
	県税	1,289	102.1	1,366	106.0	1,440	105.4	1,495	103.8	1,583	105.9		
	地方消費税清算金	303	121.2	477	157.4	488	102.3	555	113.7	654	117.8		
	地方譲与税	280	117.2	259	92.5	216	83.4	238	110.2	248	104.2		
	2. 地方交付税等	2,102	97.3	1,994	94.9	1,985	99.5	1,971	99.3	1,944	98.6		
地方交付税	1,688	100.0	1,660	98.3	1,651	99.5	1,637	99.2	1,610	98.4			
臨時財政対策債	414	87.5	334	80.7	334	100.0	334	100.0	334	100.0			
3. 県債	321	93.3	359	111.8	374	104.2	320	85.6	314	98.1			
4. 国庫支出金	753	82.0	777	103.2	768	98.8	774	100.8	769	99.4			
5. その他	1,098	101.8	963	87.7	953	99.0	960	100.7	908	94.6			
合計(A)	6,146	98.3	6,195	100.8	6,224	100.5	6,313	101.4	6,420	101.7			
歳 出	1. 義務的経費	2,766	101.5	2,907	105.1	2,914	100.2	2,929	100.5	2,977	101.6		
	人件費	1,670	101.2	1,746	104.6	1,749	100.2	1,734	99.1	1,765	101.8		
	うち退職手当	129	89.0	173	134.1	179	103.5	166	92.7	197	118.7		
	扶助費	206	105.1	253	122.8	261	103.2	277	106.1	295	106.5		
	公債費	890	101.3	908	102.0	904	99.6	918	101.5	917	99.9		
	2. 投資的経費	992	96.8	984	99.2	985	100.1	907	92.1	896	98.8		
	補助事業	590	87.7	576	97.6	558	96.9	555	99.5	554	99.8		
	直轄事業負担金	93	104.5	88	94.6	88	100.0	88	100.0	88	100.0		
	単独事業	295	118.0	246	83.4	265	107.7	190	71.7	180	94.7		
	災害復旧事業	14	107.7	74	528.6	74	100.0	74	100.0	74	100.0		
3. その他	2,437	96.5	2,441	100.2	2,469	101.1	2,614	105.9	2,708	103.6			
社会保障関係経費	613	104.1	649	105.9	665	102.5	701	105.4	739	105.4			
税関係交付金	397	246.6	555	139.8	569	102.5	643	113.0	754	117.3			
その他経費	1,427	80.4	1,237	86.7	1,235	99.8	1,270	102.8	1,215	95.7			
合計(B)	6,195	98.7	6,332	102.2	6,368	100.6	6,450	101.3	6,581	102.0			
財源不足額													
(C)=(A)-(B)		△ 49	△ 137	△ 144	△ 137	△ 161							

【歳入の状況】

- 県税**
29年度以降は消費税率引き上げの影響などにより**増加**
景気が減速した場合⇒県税収入の減少
段階的な法人実効税率の引き下げに伴う代替財源の確保については不透明
- 地方交付税**
税収の増などにより**減**
国の財政健全化計画に基づく歳出改革により、削減される懸念
- 国庫支出金、その他**
27年度とほぼ同程度で推移

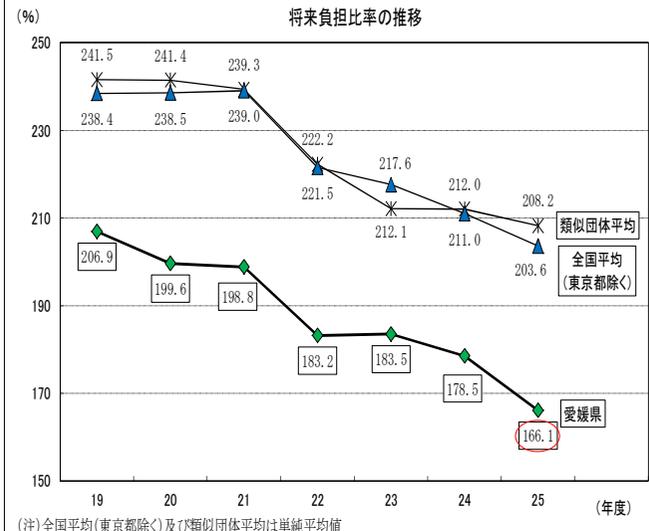
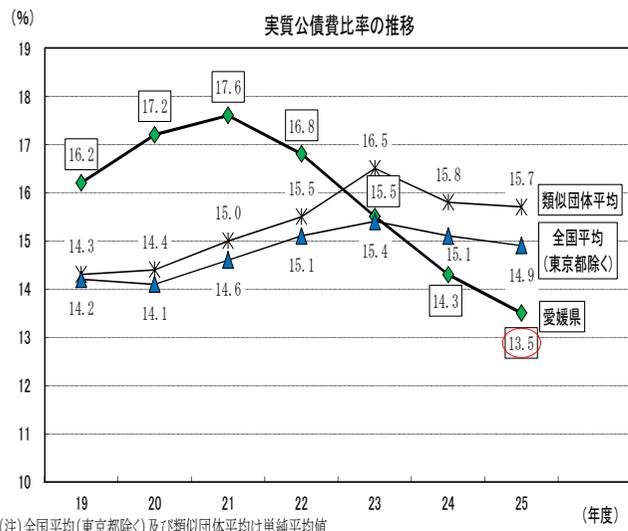
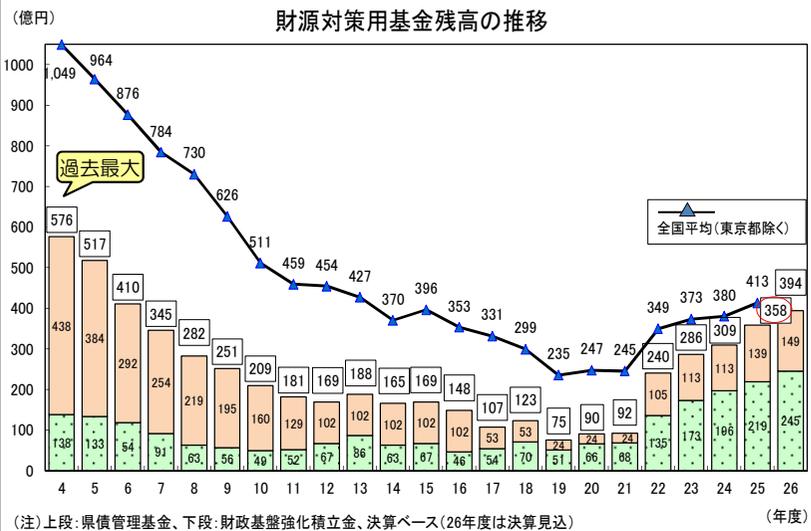
【歳出の状況】

- 人件費**
職員の年齢構成から、退職手当が増加・高止まり
職員給は少子化に伴う教職員の減により**減少傾向**
- 公債費**
20年度をピークに減少傾向にあったが、臨時財政対策債の償還増加により**高止まり**
- 投資的経費**
国補正基金事業の減などにより**減**
- 社会保障関係経費（扶助費含む）**
高齢化への対応のため毎年度大幅に**増加**
(自然増のみで毎年30～40億円程度増加)
29年度以降は消費税率引き上げの影響により更に**増加**

【まとめ】28～30年度の3か年で 442億円の財源不足

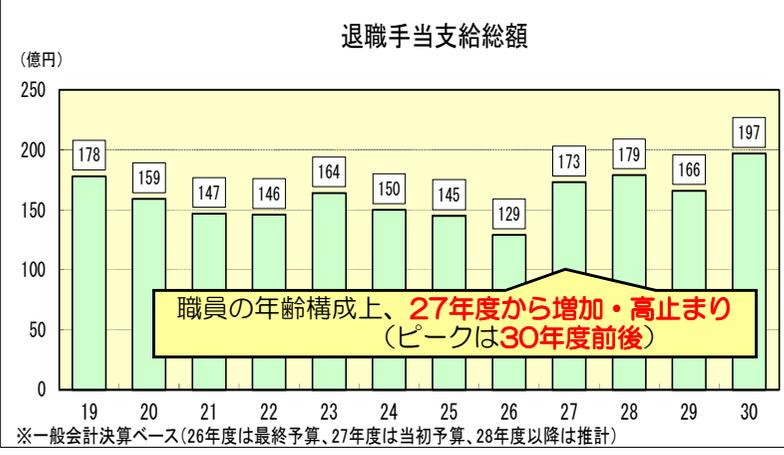
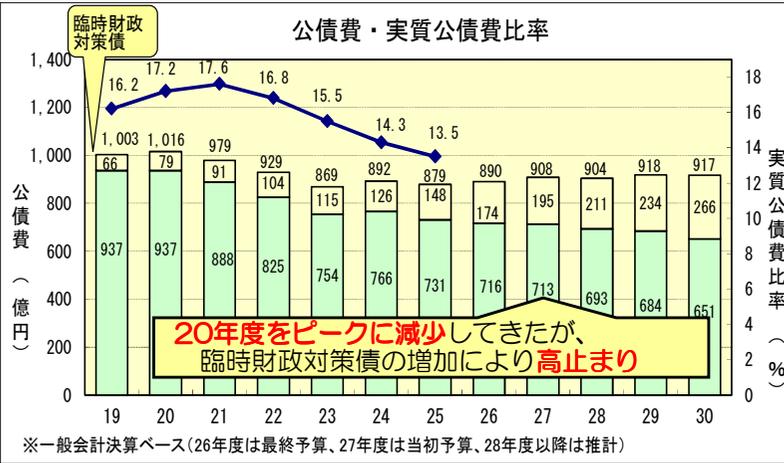
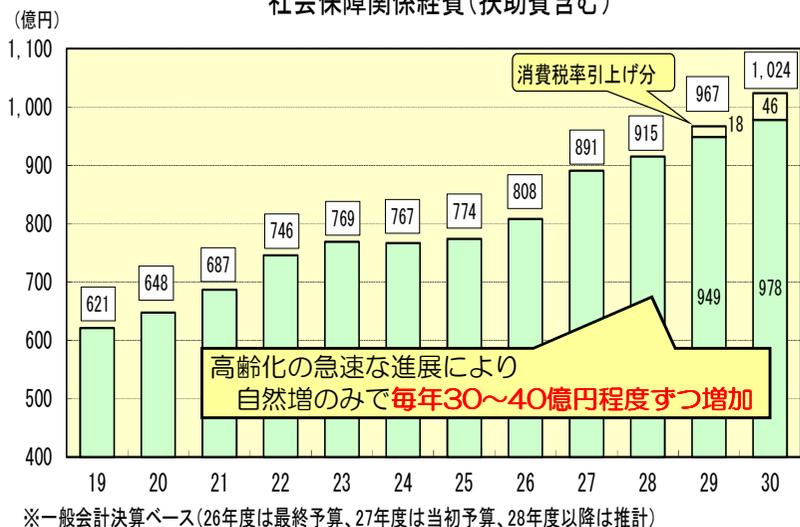
- 今後、
- 県税収入や地方交付税の動向が不透明な中、
 - 防災・減災対策や人口減少対策、地域経済活性化を推進していく必要があるため
- ⇒引き続き、歳入歳出にわたる財源対策を行わなければ、予算を組めない状況

参考1 全国平均（東京都除く）との比較



参考2 義務的経費の増加

社会保障関係経費(扶助費含む)



参考3 財政健全化の3つの目標

財源対策用基金残高

22決算 240億円

23決算 286億円 (目標300億円以上)

24決算 309億円 (目標330億円以上)

25決算 358億円 (目標330億円以上)

3年間で118億円増

実質公債費比率

22決算 16.8%

23決算 15.5% (目標15.5%以下)

24決算 14.3% (目標現状維持)

25決算 13.5% (目標現状維持)

3年間で3.3ポイント減

将来負担比率

22決算 183.2%

23決算 183.5% (目標現状維持)

24決算 178.5% (目標現状維持)

25決算 166.1% (目標現状維持)

3年間で17.1ポイント減